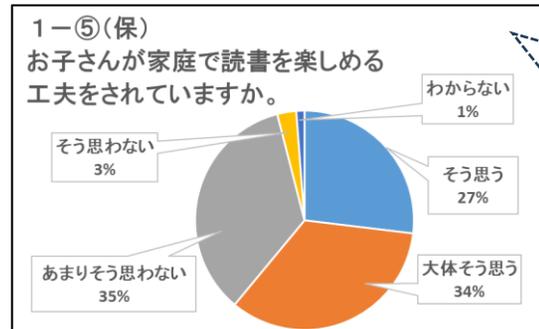
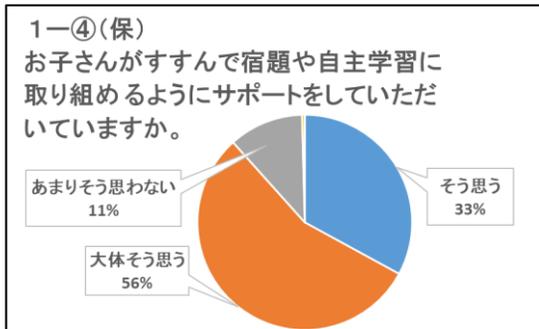
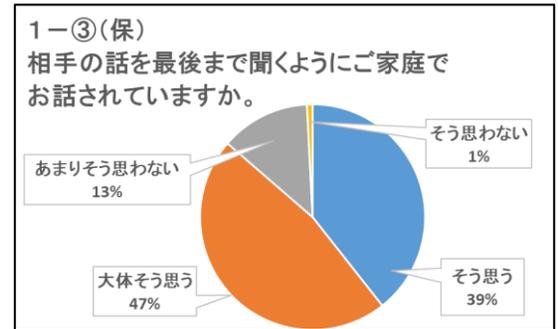
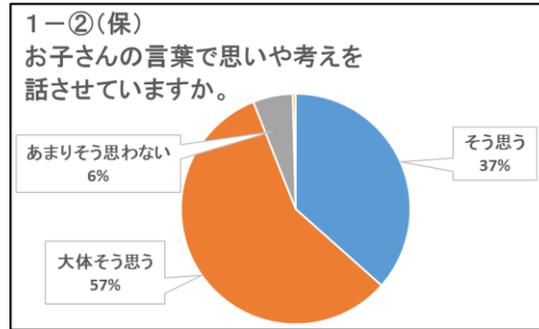
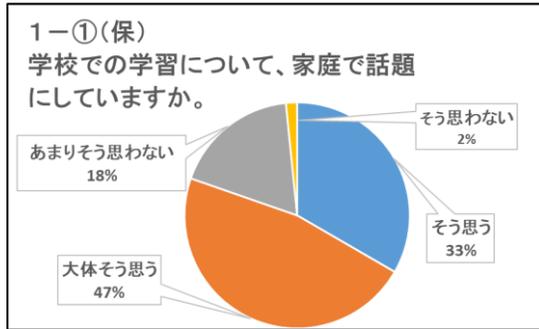
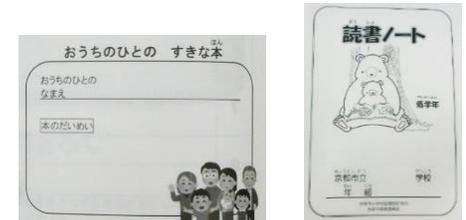


保護者



子どもたちが使っている読書ノートには、読書に親しめるための工夫が詰まっています。ぜひご覧ください。



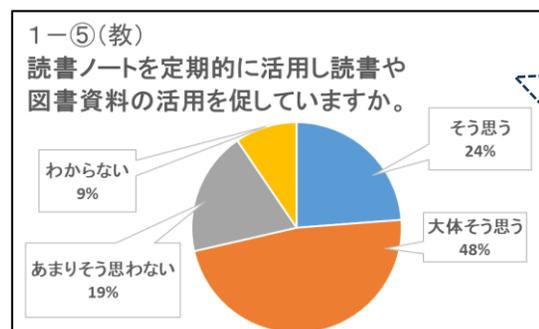
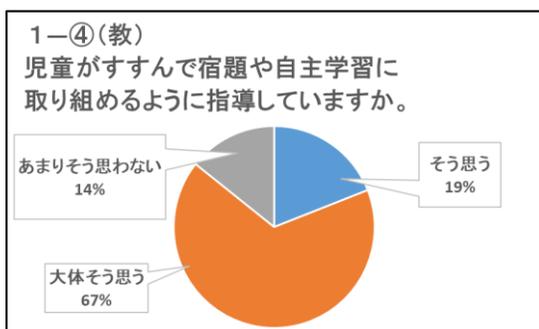
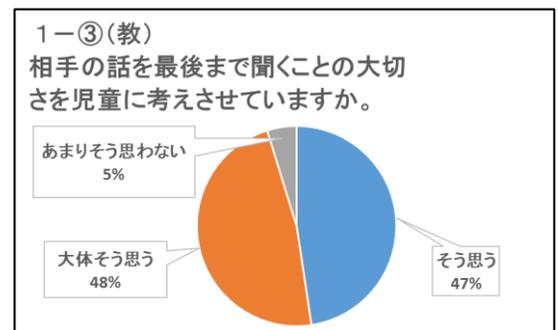
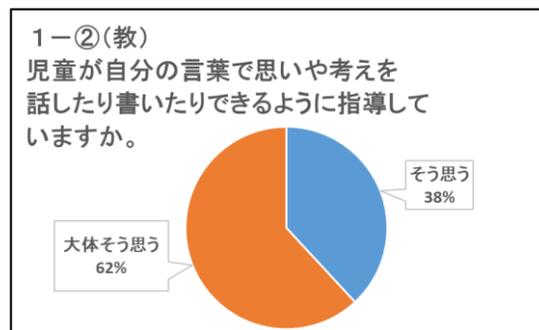
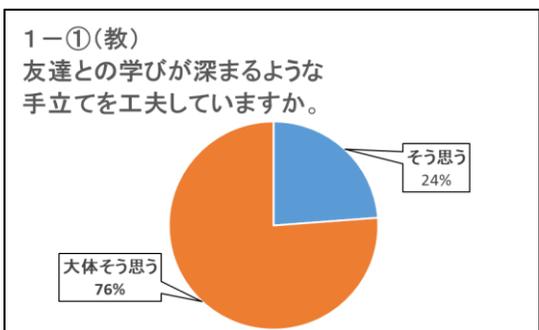
成果

80%の方が、ご家庭で学習について子どもたちの話をしっかりと聞いてくださっています。また、89%の保護者の方が子どもたちの学習をサポートしていただいています。学習についての話題を家庭でしていただき、おうちの方の助言がさらなる学習への関心や意欲を高めることにつながります。学校と家庭の両方で子どもたちの良いところを認めながら学習意欲を伸ばしていきたいと考えています。

改善点

ご家庭で読書を楽しむような工夫については、39%の方が十分にできていないとされています。子どもの読書量と学力は重要な関連があります。新たな言葉や表現、知識を得る事は子どもの未来につながります。楽しみながら長文を読む練習にもなります。また、子どもたちが使っている読書ノートには、おうちの人のおすすめの本を書くところがあります。ぜひ、お子さんと一緒に好きな本の話をしてみてください。そして、本屋や公共図書館に行くなど、家族で本と親しむ時間につなげていただきたいと思います。

教職員



自主学習を紹介する取組をしています。



成果

タブレット端末を使って、友だちと考えを共有する場面を設定したり、話し合ったりすることに重点を置いて、日々の授業を構成しています。今年度は、授業と家庭学習との連動を研究しており、一人一人が自分の意見をもった状態で授業に臨むようにしています。子どもたちが主体的に学習できるように授業改善を進めている成果が出ています。

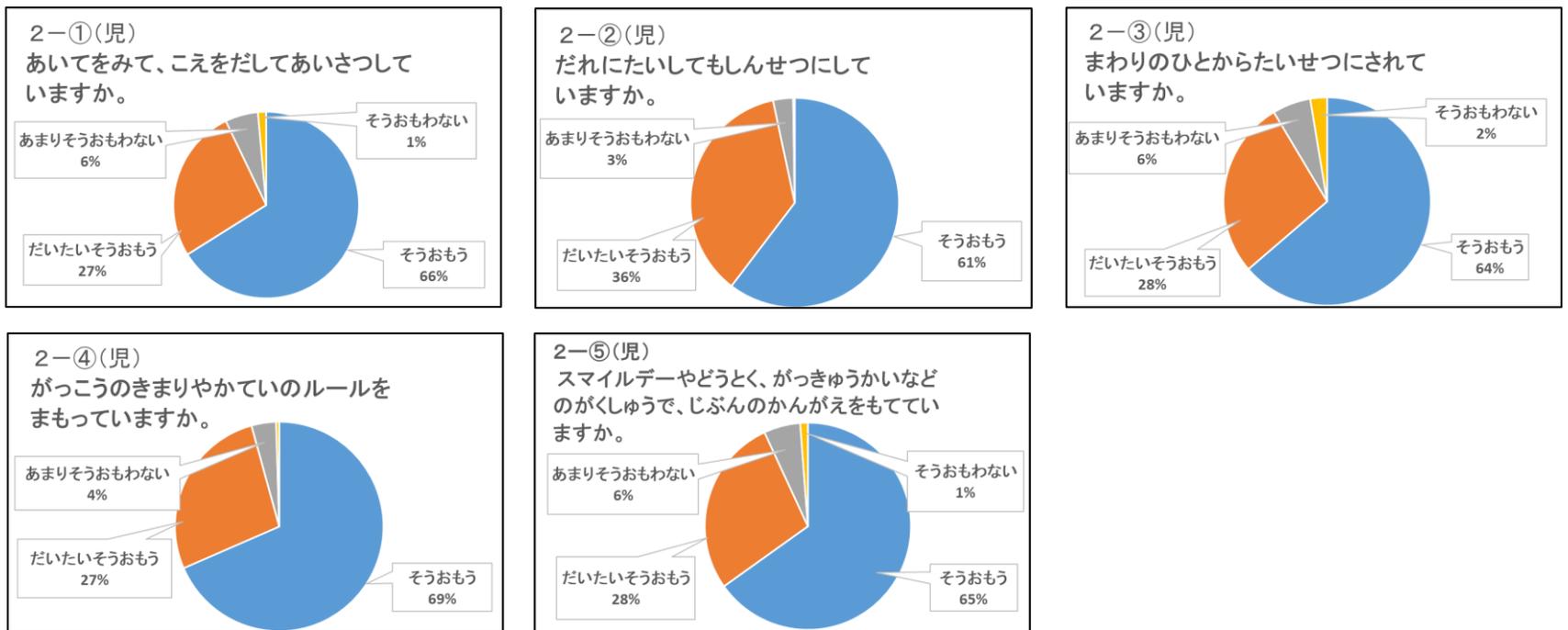
改善点

自分で学習を進めたり、意欲的に自主学習に取り組めるように図書資料を使って学習をしたりすることについては、改善していくべきところが見受けられます。特に、④の自主学習への取組や⑤の読書の取組について、「あまりそう思わない」教職員が一定数います。子どもたちの主体的な学習を進めるために、教員が自信をもって「そう思う」と答えられるように、良い取組をしている教職員同士の交流を活発にしたり、京都市の研修に参加したりして、教職員同士学び合いながら、今後も取り組んでいきます。

2. 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標 規範意識の育成や道徳教育の充実を図り、支え合い高め合う集団をつくる。

児童



成果

①の挨拶については、宇多野小の子どもたちの課題です。そのため、「相手を見て声を出してあいさつをする」というように具体的な挨拶がイメージできるような文言に変更しました。子どもたちはある程度出来ていると思っているようです。②の誰に対しても親切にしているかが高い割合となっています。子どもたちの優しさは宇多野小の自慢と言えます。上級生や学級の友達の良い姿を取り入れながら互いに高め合ってほしいと思います。③の周りの人から大切にされているか、④の学校のきまりや家庭のルールを守っているかについて、90%以上の児童がだいたいそう思う、そう思うと答えています。自分が大事にされていると感じる子どもは、心が安定し、新たな事に挑戦したり頑張る気持ちが持続したりします。規範意識の高さも素晴らしいことです。

改善点

③について、あまりそう思わない、そう思わない児童が8%おり、心配しています。学校でも子どもの困りや悩みに寄り添っていきたいと考えます。これらの項目は、集団生活や社会生活をすごす上で、とても重要です。あいさつについては、児童はできていると感じていますが、まだまだ十分ではありません。自分の友達や知っている人にはあいさつできていても、来校者など知らない人には元気なあいさつができないことがあります。児童会があいさつ運動を行ったり、より良いあいさつについて子ども主体で話し合ったりしています。大人だけが注意するのではなく、子ども自身があいさつのよさや価値を見つけていってほしいと考えています。



異学年との交流 たてわり活動

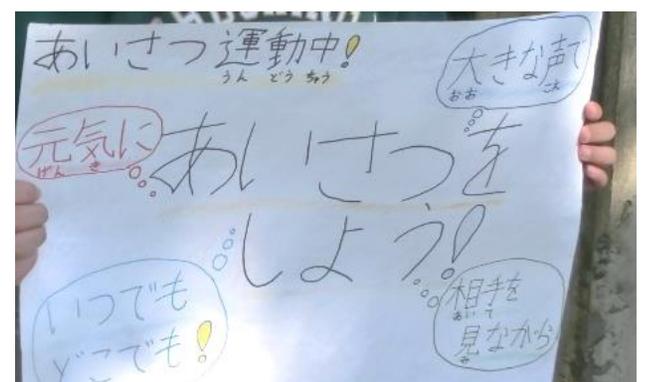


自分たちで学校をよりよくしていく代表委員会

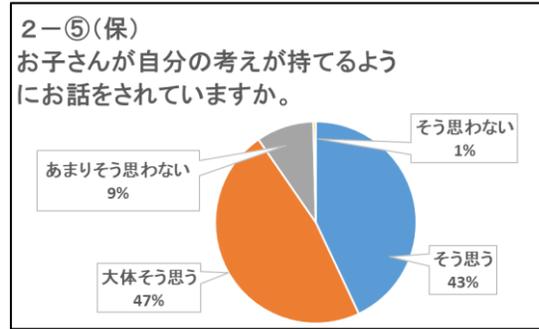
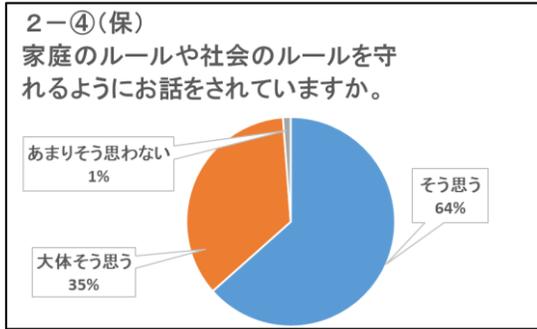
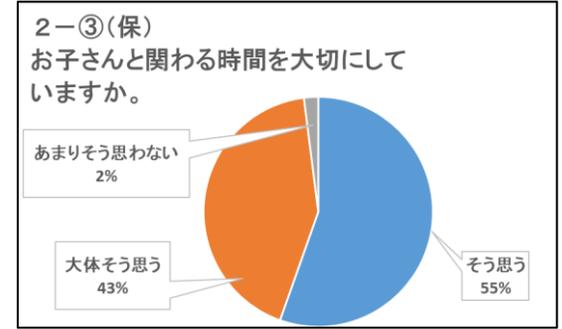
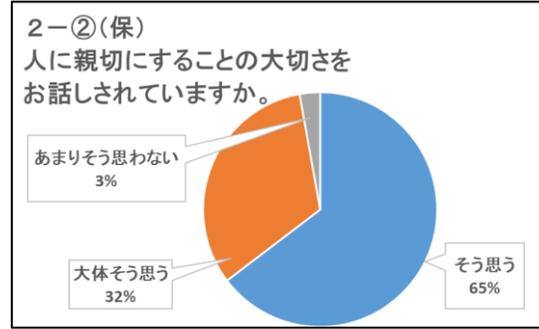
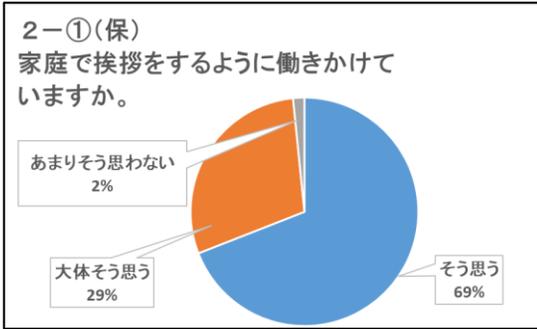


児童会のあいさつ運動

子どもたちは、学校をよりよくするために取り組んでいます。右の写真は委員会からの呼び掛けポスターです。



保護者



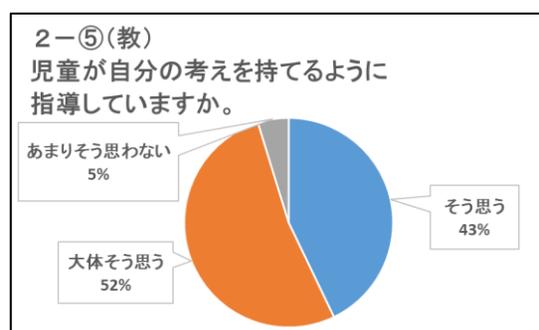
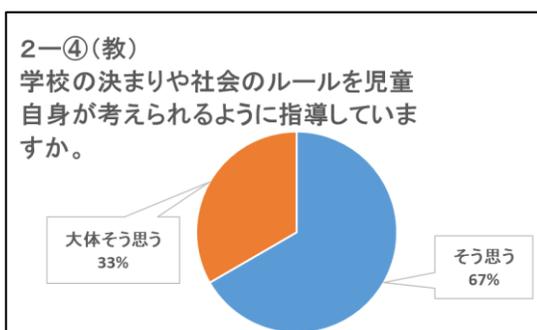
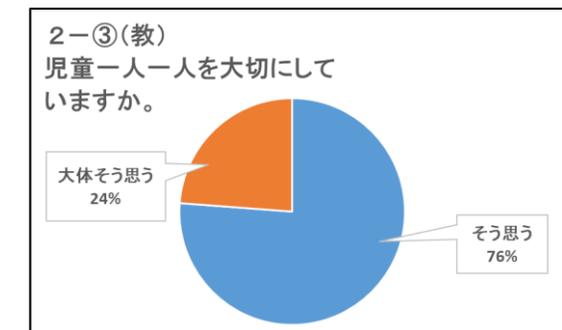
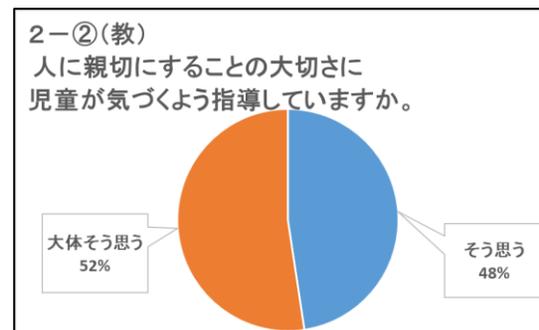
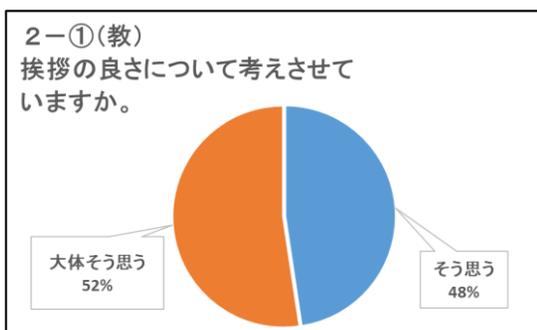
成果

保護者の方が生活の中で規範意識や友達への思いやりの大切さを教えてくださっていることがうかがえます。挨拶をすることやルールを守ることなど、社会生活を送る上で大切なことについて、おうちでもしっかりとお話をいただいていることに改めて感謝いたします。子どもが小学生の間に十分子どもに関わっていただきたいと思っています。今後もお忙しい中ですが、お子さんのためにできるだけ時間をとっていただきますとありがたいです。

改善点

①については、PTAの旗当番の方から宇多野小の子どもたちが挨拶をしないというご意見をいただいたことがあります。このことは学校や家庭だけでなく、地域みんなで考えていく課題だと考えます。また、⑤の自分の考えを持てるようにお話をされているかということについて、10%の保護者の方があまりできていないと感じておられます。お子さんとお話をされる際には指示だけでなく、「あなたは思うの?」と子どもに問いかけていただくなど、今後も子どもが自分で考える力を育てていただければと思います。

教職員



成果

教職員は児童に対して規範意識や友達への思いやりをもって生活するように指導しています。特に、あいさつをすることやルールを守ることについて、子どもたちが自分で意識して行動できるように考えさせています。出来ていないことばかりを指摘するのではなく、子どもたちが頑張っていたことや素敵な姿を紹介しています。また、子どもに役割や責任を持たせ、自己有用感を高める取り組みも意図的におこなっていきたいと考えています。

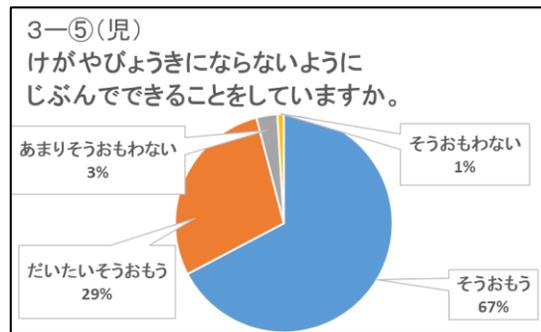
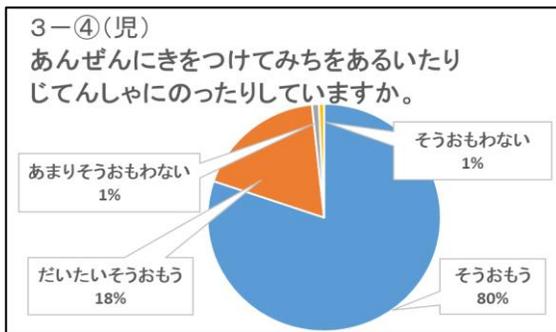
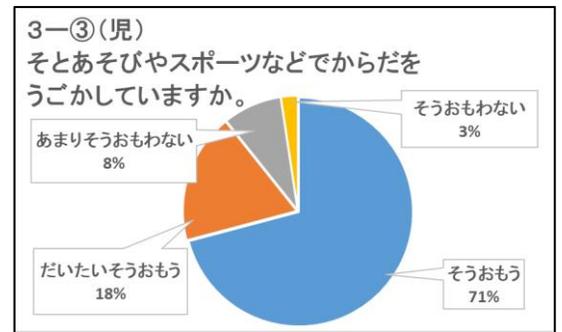
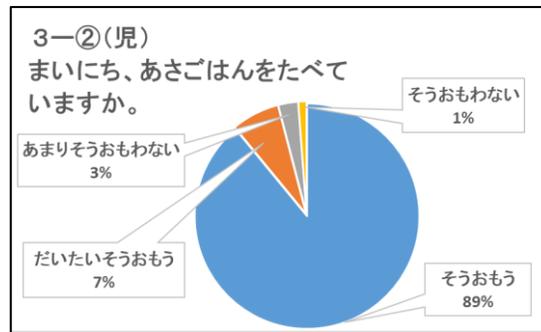
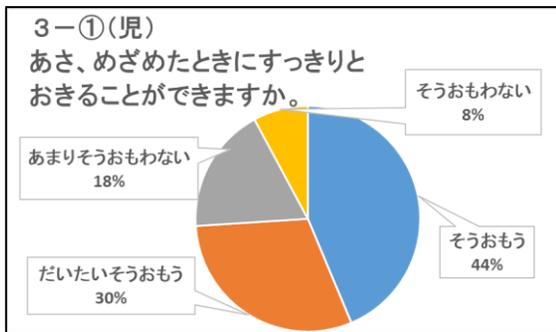
改善点

児童一人一人を大切にすることは、京都市の学校教育の大前提となっています。日々その気持ちをもって指導に当たっていますが、自信をもって「そう思う」と言いきれていないところがあります。「教える」「指示」の段階から一歩進み、子ども自身に「気づかせる」「考えさせる」指導ができるように、教員自身も学んでいきたいと思っています。

3. 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標 運動の実践と体力の向上を図りながら、安全で健康的な生活を送る子を育成する。

児童



朝、すっきりと起きられない児童が約30%います。早寝早起きをするなど、規則正しい生活を送ることができるように働きかけが必要です。

成果

睡眠や朝ごはん、安全について多くの子どもが健康的に生活できていることがうかがえます。特に、②の毎日朝ごはんを食べている割合はとて高くなっています。長期休業あけに取り組んでいる朝食しらべでも、栄養を考えた朝食をとっていることがわかっています。また、③の外遊びについても多くの児童が休み時間や放課後に校庭で遊ぶことを楽しみにしています。

改善点

朝、すっきりと目覚められていない児童が26%います。これは、寝る時刻が遅かったり、就寝前にゲームをしたりスマホやテレビ等を見ていて睡眠時間が短くなっていることが考えられます。そこで、朝すっきり目覚められるように、時間を決めてゲームをしたり、スマホやテレビを見たりすることを心掛けてほしいと思います。また、安全な道の歩き方や安全な自転車の乗り方についても課題があります。下校の歩き方や放課後の遊び方について地域住民からのお叱りもまだまだあります。学校では、学級で安全ノートを使って学習したり、町別児童集会で話し合ったりしています。引き続き、子どもが自分の安全のため、宇多野の町に住む人みんなの安全のために気をつけるという意識をもてるように働きかけていきます。



運動委員会による外遊び
交流リレー



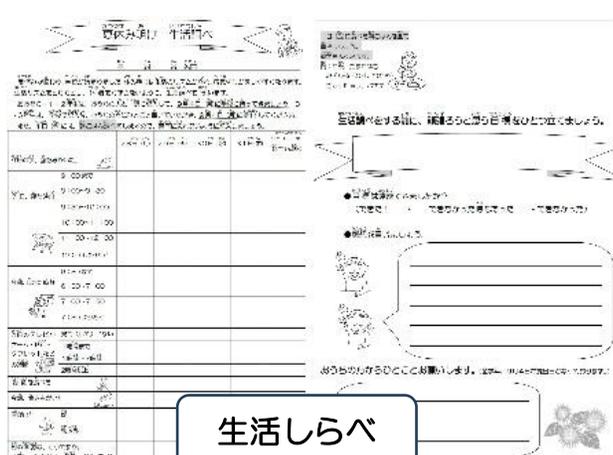
休み時間の校庭
外遊びする子どもたち



4年自転車安全教室

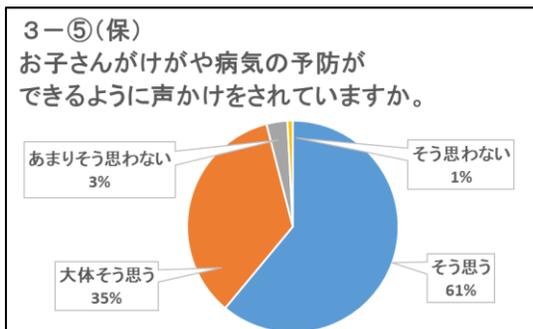
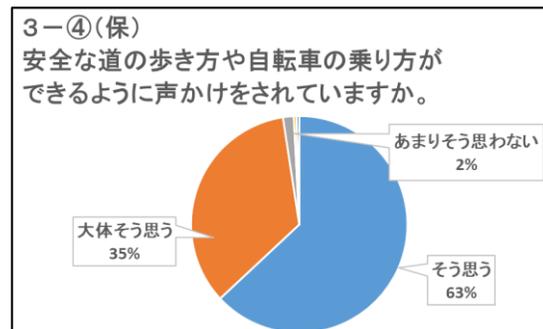
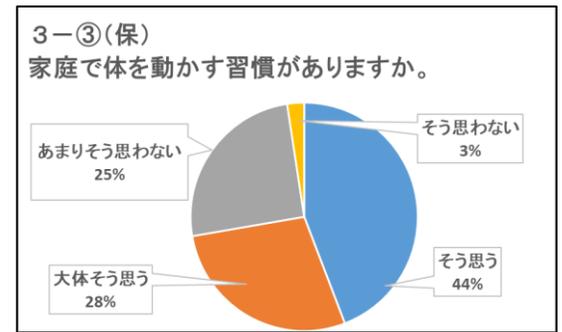
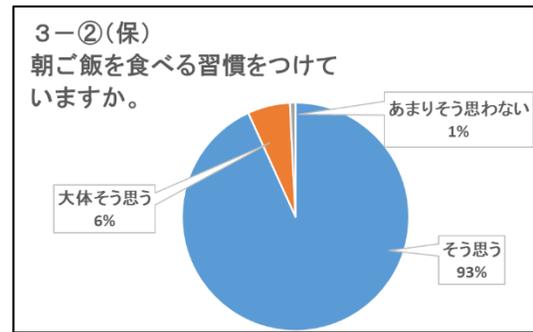
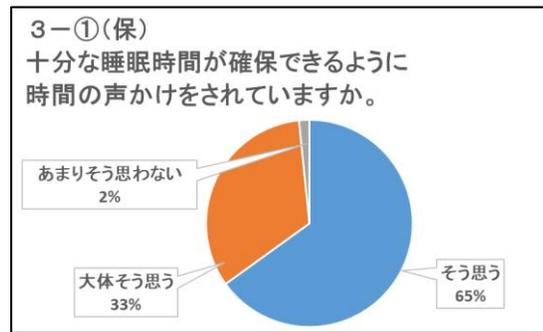


安全ノートを使った学習



生活しらべ

保護者



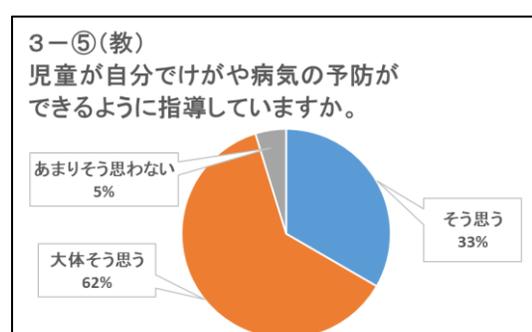
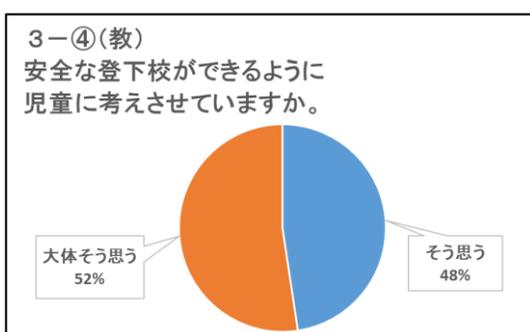
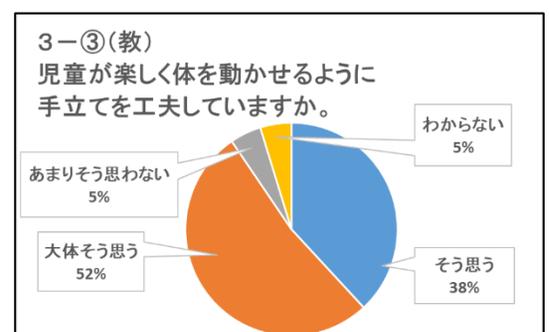
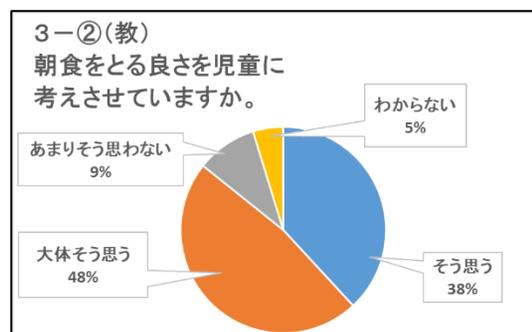
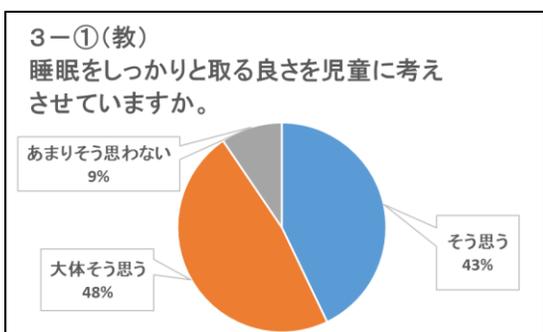
成果

十分な睡眠時間が確保できるように時間の声かけをすることや安全な道の歩き方や自転車の乗り方ができるように声かけをすることは98%、朝ごはんを食べる習慣をつけることは99%、けがや病気の予防ができるように声かけをすることについては96%の保護者の方が働きかけてくださっています。子どもたちが安全で元気に過ごすことができるように、家庭で取り組んでいただいています。

改善点

家庭で体を動かす習慣については、あまり習慣がないという方が28%おられます。体を動かすことは児童の健全な成長には欠かせません。例えば、お子さんと一緒に遊んだり、休日に散歩に行ったりするなど身近なことから取り組んでいただければと思います。また、安全については、高学年につれて行動範囲も広がっていきます。信号のない道路を渡ったり、自転車でスピードを出して交差点に入ったりして、地域の方から注意を受けることもあります。安全に気をつけることは命を大事にすることです。今一度お子さんとお話をさせていただきますようにお願いします。

教職員



町別児童会で安全な登下校の仕方を話し合います。



成果

教職員も、児童が安全で健康的な生活を送ることができるように、学活や保健指導の中で働きかけています。児童同士で考えるために保健委員会でも取り組んでいます。また、安全な登下校ができるように児童に考えさせることについては、安全ノートを使った指導や日々、話をしたり、通学路に立って指導したりするなど、いろいろな形で子どもたちに伝えています。

改善点

朝の登校指導をはじめ、これからも安全な道の歩き方や安全な自転車の乗り方についても引き続き指導を続けていきます。また、朝食や睡眠をしっかり取る良さを考えさせることについては、食の指導や生活点検表などの取組を通して指導してきましたが、まだまだ課題があります。引き続き子どもたちが自分で考える機会をつくり、よりよい生活習慣を身に付けられるように、ご家庭と連携しながら取り組んでいきます。

本アンケート結果をPTA本部役員会と学校運営協議会で報告させていただきました。その中で貴重なご意見をいただきましたので、紹介させていただきます。

<PTA本部の皆様より>

自主学習について、高学年につれて形式的な内容になっていっているのではないかと。その子の興味があることや続けて取り組んでいることなど、多様な取り組み方があるはずなのに、周りの子を意識しすぎて、だんだんきれいに漢字を書くだけのものになっていらないか心配している。自主学習を掲示して紹介する取組は良いと思うが、完成度の高いものだけでなく、アイデアが良い自主学習や人と違うことをしている自主学習、まとまっていない素朴なものなども、子どもだけでなく、家庭で教えている親の参考にもなると思うのでぜひ掲示してほしい。

日記の宿題について、家庭で困っている。親は色々な視点で書くとよいと思っているのに、子どもの方が「お出かけしたことを書く」と思いこんでいるようだ。日記の文章のバリエーションが子どもに分かるように示してくれるとありがたい。

音読の宿題は、親の方がしっかりと聞き、文章のすばらしさにふれて感慨深く聞くことがある。6年生ともなれば、国語の内容は親が勉強になるものもあるので一緒に聞いている。

PTA本部様のお話を伺い、改めて家庭で本当に熱心にお子さんの学習を見ていただいていることが分かりました。悩みながらも学習と一緒に楽しんでいただいている様子も目に浮かび、感謝しています。よく見ていただいているからこそのご意見だと思います。自主学習の本質は、その子なりに興味関心をもち、探究していくことです。体裁の整った自主学習を子どもたちが見て、「こうあるべき」と一面的に思ってしまわないように、きれいにまとまっていなくても、きらりと光る良い自主学習はたくさんありますので、それぞれが頑張っていることを保護者にも分かるように、来年度は学校全体でそろえて掲示していきたいと思います。また、日記については、やわらかくのびのびとした文章が書けるように、いろいろな学習を通して小学校のうちに指導したいと思います。

<学校運営協議会理事の皆様より>

GIGA端末を使った授業の様子を詳しく見せてもらって、どのようなものかよくわかった。教育が変わってきている。タブレットを使うと、子どもたちの「なぜ?」という気持ちを追求していけるような学習ができそうだ。タブレットを使ったら、オンラインで他校との交流を行うのも面白そうだ。何か共通のテーマを決めて一緒に取り組んでみてはどうだろうか。

また、地域には、宇多野小学校の子どもたちの安全を見守りたいという熱心な方がおられる。そういった人たちの思いをもっと知ってほしい。児童によっては、学校の先生の言うことは聞かぬが、地域の人のお話は聞かないことがある。地域の人も学校の先生も子どもたちを大切に思う気持ちは変わらない。保護者にもみんなが見守っているということをあらためて知ってもらい、安全に道を歩けるように協力を続けてほしい。

今回、学校運営協議会理事の皆様には、実際に子どもたちが学習しているロイロノートの学習記録や6年生の自主学習で探究的に取り組んでいる例を見ていただきました。言葉での説明だけでなく、実際の学習の足跡を見ていただいたことで、本当に驚かれ、子どもたちの学び方が変わってきていることを実感されていました。その上で、校内だけでなく、他の学校ともオンラインでつながり、交流しながらの学習がもっとできるのではないかと提案していただきました。以前、宇多野ユースホステルさんの仲介で英語の学習としてアラスカの中学生と6年生との交流会をオンラインで行ったことを報告しました。今後もいろいろな可能性を探っていきたいと思います。また、安全について、雨の日も雪の日も下校時の通学路に立って安全の見守りをしてくださっている地域の方々がいっぱいます。自治会長様がいつも「地域の子どもは自分の子どもと思って」と損得無しで協力を呼び掛けてくださっていることに改めて感謝するとともに、子どもの命を守るため、学校でできること、家庭でできることにそれぞれしっかりと取り組んでまいりたいと思います。

後期のアンケートもご協力
よろしく申し上げます